

穂重型 40以上
また今後草型を判定する場合は観察だけによって判定

することなく、品種選定の意味からも草型指数による分類の方法を実施した方が妥当のように考える。

昭和33年度にみられた穂発芽現象について

山 田 幸 雄・小 野 徳 治

(青 森 県 農 試)

1. は し が き

青森県では1958年の登熟期間にしばしば豪雨が襲来して水稻の冠水と倒伏を招来し、これに加えて登熟後期の打ち続く降雨により穂発芽がみられ、地域的にはかなり甚しい所があった。

そこでこの穂発芽の発生様相と穂発芽が品質に及ぼす影響を知るためにこの調査を行った。

2. 調 査 方 法

穂発芽の様相については当場の圃場から穂発芽しているものを50穂とり、枝梗の着生部位別・枝梗ごとの粒着

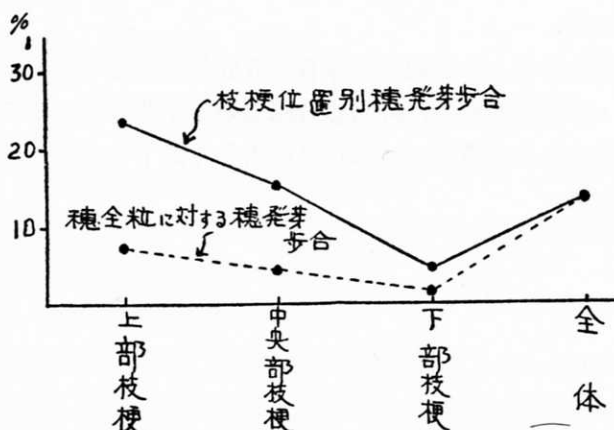
位置別の穂発芽の状態・穂発芽の千粒重をそれぞれ調査し、この場合、芽の長さを2mm以上と2mm以下に分けて調査したのであるが、ほとんど同じ傾向であるので、2つの階級を合計したものを示した。また現地から穂発芽程度の異った籾をとり寄せ、籾摺・搗精について調査を行った。

3. 結 果 及 び 考 察

まず枝梗別にみた場合、第1表及び第1図のとおり穂発芽歩合は上部枝梗が最も高く、中央部・下部の順になっており、また乾燥籾千粒重は完全籾よりもいずれも軽くなっている。

第1表. 枝梗別穂発芽歩合と籾千粒重の比較

枝 梗 別	項 目	総 粒 数	発 芽 粒 数	穂発芽歩合 %		乾 燥 籾 千 粒 重 g		
				枝 梗 別	全 穂 数	完 全	2 mm以上	2 mm以下
上 部 枝 梗		1835	437	23.8	7.1	25.0	23.0	24.1
中 央 部 枝 梗		1978	299	15.1	4.8	24.0	22.9	23.1
下 部 枝 梗		2342	110	4.7	1.8	24.2	21.1	22.5
全 体		6155	846	13.7	13.7	24.4	22.5	23.4



第1図. 枝梗別穂発芽歩合 (1958, 青森県農試)

次に枝梗ごとの粒着生位置別にみた穂発芽の様相は、第2表及び第2図のとおり各枝梗とも先端の1粒目が最も穂発芽歩合が高く、次いで上部枝梗では5・4・3・

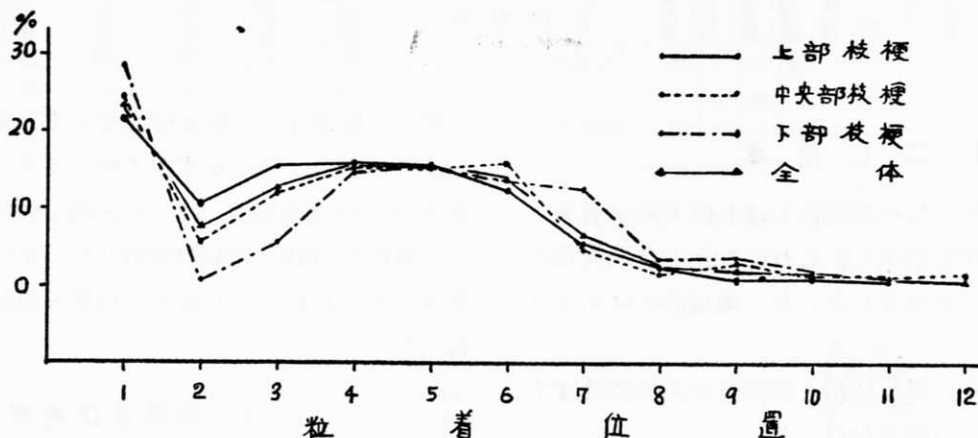
6・2・7の順となり、中央部枝梗では1・6・5・4・3・2・7・8・9となっており、下部枝梗では1・5・4・6・7・3・8・9・10・2の順となり、前二者といくらか順位は違っているが、その傾向は前二者にはほぼ類似していることが窺われる。

そしてこの穂発芽歩合の順位を考察すると、水稻の開花順位と極めて深い関係が認められ、開花が早く登熟の進んだものほど穂発芽歩合の高いことが、枝梗間の比較・枝梗内の粒着位置間の比較でも認めることができる。そして水害実態の現地調査でも熟期の進んだものほど穂発芽程度の大であることがはっきり認められた。

次に穂発芽程度の大小によって籾摺や搗精がどのようになるかを調査した。これは標本を現地からとり寄せた

第2表. 粒着位置別穂発芽歩合

枝 梗 別	粒着位置	枝 梗 の 先 端 から 下 へ の 順 位											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
上 中 下 全	部 枝 梗	21.3%	10.3%	15.3%	15.8%	15.6%	12.1%	5.7%	2.1%	0.9%	0.7%	0.2%	—
	央 部 枝 梗	24.4%	5.4%	12.0%	15.4%	15.1%	15.7%	4.7%	1.7%	3.0%	0.7%	0.7%	1.2%
	部 枝 梗	28.2%	0.9%	5.6%	14.6%	15.5%	13.6%	12.7%	3.6%	3.6%	1.7%	—	—
	全 体	23.3%	7.3%	12.9%	15.5%	15.4%	13.6%	6.3%	2.1%	2.0%	0.8%	0.3%	0.5%



第2図. 枝梗別粒着位置別による穂発芽歩合の割合 (1958, 青森県農試)

第3表. 穂発芽程度を異にする籾の籾摺・搗精成績

穂発芽 程 度	品 種 名	穂発芽 歩 合	籾 摺 歩 合	1 ℓ 重			千 粒 重		搗 精 歩 合	搗精後の 碎米粒数比	産 地
				精 籾	玄 米	精 米	玄 米	精 米			
甚 多 少 無	ト 藤 農 農 農 農 農	38.5	77.1	559	768	796	19.7	18.6	83.3	42.3	木造町
	ワ 坂 5 号	29.8	69.7	555	768	798	21.0	20.5	84.5	33.3	甲地村
	林 17 号	24.6	81.0	581	792	796	22.2	21.4	88.5	16.5	木造町
	農 林 17 号	5.1	80.9	585	794	804	20.4	20.6	90.0	17.3	尾上町
	ワ 農 農 農 農 農	—	80.7	596	804	810	22.5	21.0	90.9	9.0	当 場
	林 17 号	—	78.8	581	817	810	22.6	21.6	92.9	10.7	当 場

注：穂発芽歩合は乾燥籾を調査したもので正確ではない。

ので、産地・耕種法等がまちまちであり、厳密な比較は
もちろんできないが、概略の傾向は認められると思うの
で報告することにした。

その成績を示すと第3表のとおり穂発芽の甚しいもの
ほど籾摺歩合が低く、玄米・精米の1ℓ重や千粒重が軽
く、搗精歩合が低く、搗精後の碎米粒数比率が高くなっ

ている。

以上のことから穂発芽歩合が5%程度のものでも1ℓ
重・千粒重が軽く、碎米歩合にも若干影響していること
が認められ品質並びに歩止りの大きく低下することが窺
われる。